図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉　おしらせ No. 214　　2022・07・27

蟻の道 雲の峰より つゞきけん

――茶―

6 月の内に梅雨明け宣言、
灼熱ともいうべき 7 月となりましたが、
その後戻ってきた、雨、雨、雨の日々。
そして 2 度目の梅雨が明け、
再び灼熱の夏がやって来ました。
不安定な天候の多い昨今。
体調管理万全にして
長くなりそうな夏を乗り切りましょう。
涼しい図書館で或いはご自宅で
ゆっくり本でも読みながら。

○　CONTENTS　○　PAGE

☆ 教育文化財部長・中央図書館長と懇談しました ･･･1
☆ 旧鎌倉図書館に関する「市長への手紙」に丁寧な回答をいただきました ･･･3
☆ 第12回「本の海サポーターズ交流会」に参加しました ･･･4
☆ 寄贈本紹介
☆ 企画展「堀内誠一絵の世界」見学記 ･･･5
☆ 「おしゃべりランチ会」でのおはなし会報告
☆ 図書館友の会全国連絡会総会＆交流会が終了しました ･･･6
☆ 末吉さんを偲んで/末吉さん、ありがとうございました ･･･7
☆ 松坡先生をめぐる人々7 西松秋畝　袴田 潤一 ･･･8
☆ 松坡文庫研究会 第3回講演会のお知らせ ･･･9
☆ F☆L実行委員会報告/パブコメ提出について
☆ 湘南邸園文化祭連絡会報告/ 銀幕情報 ･･･10
☆ ボランティア連絡協議会報告/協働事業推進部会報告 ･･･11
☆ 活動日誌
☆ 事務局から ･･･12

教育文化財部長、中央図書館長と懇談しました

◎館長、館長補佐との話し合い(5月18日　於:福祉センター)

5 月 18 日の例会に栗原中央図書館長と浅見館長補佐に来ていただき 1 時間ほど話し合いをさせていただきました。主なテーマは司書採用の現況と新市庁舎整備計画による中央図書館、深沢図書館の移転についてです。

まず、司書の新規採用については、今年度後半期に実施予定の職員採用試験時に司書も採用するよう上に働きかけている、採用者は新卒者と経験者の両方必要と考えているという答えでした。そして、来春退職予定の司書の方が亡くなられたが、その補充は急がれるのではないかという点については、今年度は正職員ではなく会計年度任用職員を充てる、6 月に採用試験を行い、 7 月から勤務してもらうということでした。

栗原中央図書館長、浅見館長補佐との懇談会

予定されている市庁舎移転に伴って中央図書館と深沢図書館がどうなるのかという大きな問題が差し迫っています。これ

については、深沢図書館は新市庁舎に入り、中央図書館は現市庁舎跡に移転する予定ということ以上の具体的な説明はありませんでした。ＴＯＴＯＭＯからは、移転後の中央および深沢の図書館をどのような図書館にするのか、専門家を交えた検討の場を設けてほしい、図書館サービス計画にも移転についての目標を盛り込んでほしいと要望しました。

そのほか、読書バリアフリー法に基づく障がい者サービスの充実、国立国会図書館の書誌データ活用についても話し合いたかったのですが、時間が足りず今回はできませんでした。

◎教育文化財部長、中央図書館長との話し合い（6月29日　於：福祉センター）

佐々木教育文化財部長（左）、栗原中央図書館長（右）

6月29日に佐々木教育文化財部長、栗原中央図書館長と懇談しました。ここでも主なテーマは司書採用を中心にした職員体制と市庁舎移転についてでした。

司書の新規採用については、この時点で市のホームページに募集要項が掲載されました。それによると受験資格は1976年4月2日以降に誕生の人、8月下旬に応募の受付を開始し、9月下旬に第1次試験、11月下旬に合格発表となっています。

部長からは以上に加えて第1次試験は他職種と共通のテストになり専門職としての審査は面接の際に行う、採用人数は今のところ未定であるということでした。（採用人数について前号の会報で2名と書きましたが、部長は人数を明言したわけではなく、現体制を維持したいという趣旨の言葉を受けて思い込みで書いてしまいました。お詫びして訂正します）

ＴＯＴＯＭＯからは、亡くなられた職員の補充のために会計年度任用職員1名を7月から来年3月まで充てるとのことだが、それだけでは欠員状態を埋めきれず、職員は大変な思いをしているのではないか、それに加えて市庁舎移転に伴う二つの図書館の移転があり、それへの対応を考えると職員体制の充実が必要ではないかと訊ねました。

これに対して部長からは、職員課に人員配置のことを話すとき、欠員が出ているから採用してほしいと言うだけではだめで、なぜ人が必要かの根拠を説明しなければならない、そのためには今後どういう図書館にしていくか、それにはどういう人員配置が必要かを具体的に提示する必要がある、人員増については不可能とは言わないが、他の職場の減員につながるので容易ではない、司書の確保については長期的な視点で考えねばならないが、当面は退職者の穴を埋めるための具体的な説明の仕方を現場とともに検討しているということでした。

次に、市庁舎移転に伴い中央図書館、深沢図書館がどうなるかという問題については、深沢図書館は新市庁舎に入る、中央図書館は現市庁舎跡に移転する予定で、中央図書館はほぼ同規模、深沢図書館はスペース減になるということでした。

ＴＯＴＯＭＯからは、深沢図書館は鎌倉市全域をカバーする「かまくら読書活動支援センター」の担当館になっており、小中学校、幼稚園等への学習パックや子ども読書パックの支援を行っている、現在はそのための資料保管スペースが地下書庫に確保されているが、延べ面積が減ってどうなるか心配だ、デジタル対応機器の設置や閲覧席の確保など地域館の充実が求められており、むしろ面積の拡大が求められる、新市庁舎に移転する議会図書室との連携という新たな課題もある、中央図書館については、近代史資

料室を含めどういう中央図書館にするのか、有識者、司書経験者、図書館建設に携わった人などの意見を聞いてほしいし、パブコメだけでなく市民の意見を直接聞く場を設けてほしい等のことを要望しました。

これに対して、館長からはパブコメにかけられているのは基本構想および基本計画なので、すべてが決まったというわけではない、ぜひ市民の意見を書き込んでほしい、部長からはスペース減で地域館の基本機能の部分まで影響するとは考えていない、共用部分で活用できるところは活用したいという答えでした。以上で時間切れとなり話し合いは終了しました。

最後になりますが、今回も話し合いに応じていただき、こちらからの様々な意見や要望に対して現時点で答えられることを率直に述べていただけたことに感謝したいと思います。（和田安弘）

旧鎌倉図書館に関する「市長への手紙」に丁寧な回答をいただきました

6 月 17 日に旧鎌倉図書館の修復工事の現況と今後について「市長への手紙」というかたちで 17 項目にわたる質問ならびに要望を市に提出しました。その回答書を 7 月 13 日にいただきました。「市長への手紙」を活用しての質問状はこれで2度目になります。今回は項目が多く内容も多岐にわたるものでしたが、一つひとつ丁寧かつ具体的に答えていただきました。（添付資料参照）

回答内容の注目すべき点の一つはオリジナルな造りがどれだけ復元されるのかということですが、特徴ある窓、階段の柱・手摺、1階の柱・梁の装飾部材などは再活用し、内壁の腰板なども意匠を踏襲するとなっています。当初から文化財登録を念頭に外観の維持に努めるとしていましたが、内装についても配慮されていると感じられました。また、3 層の書庫に置かれた木製書架の部材も旧鎌倉図書館の歴史に触れられる展示用の棚に再利用するとしています。

もう一つは旧鎌倉図書館を歴史遺産としてどのように残していくかという点です。これについては竣工後、速やかに文化財登録に取り組む、この建物の由来を伝える案内板を設置する、ふるさと納税による寄付金集めは従来通りの形で継続するとあり、そこは心強く感じます。また、竣工時に内覧会を開催する、オープニングセレモニーも予定しているとのことです。しかし、いずれも市の主催で行うということで、市民による催しの実施には否定的な回答になっています。

例えば、担当課と事前に打ち合わせをし、当日も立ち会っていただくかたちで市民団体による催しも可能にしていただけないでしょうか。旧鎌倉図書館が鎌倉の貴重な歴史遺産として末永く保存・活用され市民に親しまれる存在となるよう市民としても努力していきたいと考えるからです。

修復中の旧鎌倉図書館)((2022 年 7 月現在)

修復工事完了後の報告書についても施工業者の完成図書類だけでなく、建物の由来、歴史的価値、工事の概要、旧部材を活用した箇所がわかる図面などを保存し、後々の修繕や大規模改修時に備えるべきではないでしょうか。市民団体がこれまで集めた寄付金の活用方法や上に述べたことも含め、できれば今年度内に協議させていただければと思います。（和田安弘）

「障害福祉サービスの充実」にむけた取組みの一環として実施された今年の「本の海サポーターズ交流会」。９名のTOTOMOメンバーが参加しました。

第１２回「本の海サポーターズ交流会」に参加しました

6月16日（木）9：30～11：30
於：深沢学習センター3階ホール

コロナの影響で3年ぶりの開催となった「本の海サポーターズ交流会」。始まりは、図書館や市内の小学校、こどもの家などでおはなし会活動をされている方たちの情報交換の場として何かできないかと、とともが協働事業の一つとして企画に携わったものでした。それを今も児童サービス職員の皆さまが続けてくださっていることは大変うれしいです。

今回はおはなしひうこうせんの月例会と重なった為、メンバーと共に参加しました。

「手話でコミュニケーションがとれるようになりたいな」
（画像提供：鎌倉市図書館）

この日の内容は①神奈川県聴覚障害者連盟の方々によるお話と実演②障害福祉サービスについて市職員のお話③参加者の交流タイム　でした。

まず、神奈川県聴覚障害者連盟の方々に、手話についてうかがい、手話での挨拶や単語などを一緒にやってみました。手話は手の形だけでなく、表情や動きで感情も表現する。手話を第一言語とする人にとっては最も自然で自由に会話ができるのが手話とうかがい、手話は手段、多くの人が対応できる筆談でも良いのでは？と思っていた私は考えを改めました。そういえば、知り合いの視覚障害者の方は、情報はDAISY図書を2倍速で聞くけれど、読書は点字図書が好きと言っていましたっけ。次に絵本『ももたろう』の手話付き読み聞かせ実演。役割の切り替え、大人のセリフ（目線下向き）、子どものセリフ（目線上向き）をきちんと表現されていて、話に引き込まれました。聾のお子さんの言葉の獲得にも絵本を使用するとのこと。それは聞こえるお子さんも同じですね。障害をお持ちの方も、特別なことではなくその方に合った形で図書館（蔵書やおはなし会対面朗読など）を利用できるようになるといいですね。計画中の新図書館はそれがハード面でも叶うような施設になることを期待しています。

交流タイムでは、コロナの影響下でのおはなし会開催の状況や工夫などの報告がありました。大変有意義な交流会でした。　（松本陽子）

♪寄贈本紹介♪

『どんぐり三人童話集　雲の中の家族』

大石美代子、菅谷よしのぶ、草谷桂子著　2019年　静岡新聞社

図友連の仲間の一人である静岡の草谷桂子さんが、ご著書を寄贈してくださいました。同人誌仲間３人の方の作品集です。家族の話やちょっと不思議な話９編を楽しむことができます。お読みになりたい方は、事務局までご連絡ください。

企画展「堀内誠一絵の世界」見学記

5 月 16 日（月）クレマチスの丘（静岡県長泉町）

参加者：石原・大山・福田・松本・吉山・杉崎

コロナ禍で県外への外出は控えていましたが、３回目のワクチンも済み、感染者も少し落ち着いていた 5 月、思い切ってひこうせんメンバーでクレマチスの丘ベルナール・ビュフェ美術館まで出かけました。あいにくの雨ふりでしたが、そのおかげか電車もすいていてのんびり行くことができました。

クレマチスの丘入口にて

美術館で行われている堀内誠一展を見ることが一番の目的。堀内誠一は、『ぐるんぱのようちえん』『こすずめのぼうけん』など多くの絵本の挿絵を描かれた絵本好きにはお馴染みの作家です。カラフルでかわいい絵は、子どもたちも大好き。「絵本作家の道こそ運命が決めた本命」とご本人が語っていたそうで、原画は愛らしく美しく心に残るものでした。

絵本の挿絵以外にも、雑誌「anan」や「POPEYE」などのロゴデザイン、世界各地を巡り旅先の風景や地図、旅行記など様々な作品を描いていて、展覧会は見ごたえがありました。54 歳（1932 年生～1987 年没）という短い生涯の間に数多くの作品を残し、それが今も色あせずに私たちを夢中にさせてくれる稀有な作家だと思いました。

クレマチスの丘には、もう一つヴァンジ彫刻美術館があり、館内はもちろん屋外にも彫刻作品が並び、ちょうど満開のクレマチスやバラの花とともに楽しむことができました。（杉崎敦子）

「おしゃべりランチ会」でのおはなし会報告

6 月 30 日（木）腰越行政センターにて

参加者：石原・福田・星・松本・杉崎

みんなで積みあげ話

今年１月と４月に子育てサロン「西鎌倉ぽっけ」でのおはなし会をしたご縁で西鎌倉地区社会福祉協議会より「おしゃべりランチ会」でのおはなし会の依頼がありました。ひこうせんで高齢者向けのおはなし会をするのは初めてのこと。どんな絵本や紙芝居がよいか検討するところから始め、いつもより緊張してその日を迎えました。

ランチ会の参加者は、皆さんお元気で久しぶりの集まりにおしゃれしていらっしゃいました。コロナ禍や猛暑で、外出もままならない日々、送迎付きのこういった集まりは貴重なのだと感じました。おはなし会はランチ会の余興として行い、本来ならその後皆さまでお食事しながらおしゃべりとなるのですが、コロナの感染が心配されるため用意されたお弁当はお持ちかえりでした。

おはなし会では、落語絵本、積みあげ話、紙芝居など７作品を読みました。参加型の紙芝居には積極的に参加し、楽しんでくださいました。後の感想では、もう少し大人向けの作品も読んでほしいというお話もありましたので、今後の課題といたします。優れた絵本や紙芝居は子どもだけのものにしておくのはもったいないので、多くの方に楽しんでいただければと思います。

西鎌倉地区社会福祉協議会スタッフの皆さま、準備の段階から、いろいろお世話になりありがとうございました。次回（9 月 15 日）のおしゃべりランチ会でもよろしくお願いいたします。（杉崎敦子）

図書館友の会全国連絡会（図友連）総会＆交流会が終了しました

■ 通信総会

（日程　議長承認：5 月 15～19 日・議案前半：5 月 20～27 日・議案後半：5 月 28 日～6 月 4 日・書面議決書提出期限：6 月 18 日）

船橋事務局長の司会により、5 月 15 日より約一か月にわたる図友連の通信総会が始まりました。COVID-19 の収束には未だ至っていないため、今年も対面による総会が叶わないことは残念でした。しかし通信総会には時間や場所の制約を受けないというメリットがあります。承認された議長（個人会員・大阪）、副議長（「くまとり読書の会」会員・大阪）のもと、20 日より議案前半部分の討議が開始しました。内容は、活動報告、決算報告、監事監査報告です。

議論の中では、昨年図友連が（公財）日本図書館協会に加入したことで得られた具体的なメリットがいくつか報告されるなど、懸案であった団体加入後の検証も行われました。

28 日からの議案後半では、運営委員及び監事候補、活動方針、予算案について討議されました。運営委員や監事候補の紹介には氏名一覧だけでなく紹介文のようなものを加えてはどうか、との提案や、昨年度から中期目標に掲げている「司書職制度の確立」に向けた意見交換など、締切間際まで各地からの発信が相次ぎました。今後の議論の深まりが期待されます。

6 月 5 日以降は 18 日が提出期限の書面議決書提出に向けて団体会員は地元に議論の場を移し検討を進めました。その結果、定足数に足る 100 会員からの議決書の発信があり、提案された議案はすべて承認となりました。

■交流会

7 月 2 日、ZOOM による交流会が行われ、全国各地から 27 名の会員が集いました。1 部では自己紹介、2 部ではテーマ別の意見交換がされ交流を深めました。事前に日頃の課題などを含む参加者各自の紹介資料の提出が呼びかけられ予習（？）を終えての参加だったためか、一人 3 分の持ち時間でしたが、互いの状況をよく理解できました。つづく 2 部では、それぞれの地域活動に根差した貴重な情報が飛び交い、内容の濃いつっこんだ話し合いができました。また画面ごしとはいえ顔を合わせてのやりとりでは旧交を温めるひとときもあり、交流会の醍醐味を満喫し、名残りを惜しみながら終了しました。

TOTOMO からは、規定限度である 4 名が図友連の全国ＭＬに登録し、内 1 名が運営委員（代表）を務め、運営委員会ＭＬにも入っています。併せて「司書職制度」「要望書作成」「会員アンケート調査」の各プロジェクト班の ML に加わっており、何れのＭＬも日々活発なやりとりが行われています。

限られた予算の中で全国の図書館仲間とつながる苦肉の策として、2004 年の発足当初から電子会議中心の活動にならざるを得なかった図友連ですが、考えてみると、先進的に“テレワーク”を導入し、結構早くからオンラインでのコミュニケーション力を醸成してきたといえるのかもしれません。

図書館の振興発展のために、今年も粘り強く歩を進めていこうと皆で話し合っています。

図書館友の会全国連絡会（totomoren.net）

（阿曾千代子）

末吉哲郎さんを偲んで

TOTOMO と縁が深くお世話になった末吉さんが去る 6 月 7 日に亡くなられた。享年 90 歳で天寿を全うされたのだと思いますが、誠に残念で謹んでご冥福を祈り上げます。

末吉さんは大学卒業後経団連に定年まで勤められ、その間経団連の図書館長や他の要職を歴任されましたが、特に図書館界のために貢献され、古くは専門図書館協議会を立ち上げられたり、書誌や索引や目録や経済関係の文献研究などの各種研究会や団体の創設や代表に名を連ねられ、晩年はアーカイブスの研究の先駆者でもありました。特に図書館をサポートする図書館サポートフォーラムを立ち上げられ初代代表となられ、図書館界に貢献した個人や団体を表彰する図書館サポートフォーラム賞を提唱創設され、TOTOMOも末吉さんの推薦で第 3 回図書館サポートフォーラム賞を頂きました。そしてTOTOMOの活動を大いに評価されひいきにされ度々TOTOMOの会合にも顔を出されいろいろアドバイスなど頂きました。お会いしたり電話すると何時も決まって皆元気でやってるかと聞かれ、TOTOMOに行くよと必ず言われましたがコロナで2・3年それもかないませんでしたのが最後になりました。個人的にも大変お世話になり父が上司だったので父の墓参りも忘れないという律儀な方でした。鹿児島出身の薩摩隼人の九州男児でした。ご冥福を祈ります。　（三浦邦雄）

第３回図書館サポートフォーラム賞受賞を記念して末吉さん(前列右から２人目)と記念写真

末吉さん、ありがとうございました

末吉さんと初めてお会いしたのは 1999 年 6 月に開いた第 7 回としょかん面白ゼミナールの講師をお願いした時でした。前年 1 月に会を立ち上げ、「図書館とともだち」になるために皆で図書館見学会や学習会を重ねていた頃のことです。お話の演題は「贅沢図書館待望論」。冒頭の景色は今も鮮やかです。経団連の元図書館長さんは、まず黒板に「贅沢は　敵だ」と大きく板書し、「戦時中に流布したこの標語を皆さん知っていますか？」とお訊ねになりました。その後おもむろに、あいたところに「素」と書き込んで悪戯っぽく微笑まれたのでした。その時は面食らいましたが、四半世紀がすぎ、今は「贅沢図書館」を待望する気持ちがよくわかります。そして「贅沢な」公共図書館構想について、末吉さんともっとお話ししたかったと寂しさが募ります。

2001 年、末吉さんが代表を務められた「図書館サポートフォーラム」から表彰された時は吃驚仰天しました。長年活動している友の会がたくさんあるのに何故 TOTOMO が？数年後にお聞きしました。「顕彰は大事だけれど、出発したばかりの団体にエールを送ることも大切だからね」と。以来、この賞にふさわしい団体になりたいとの気持ちが消えることはありません。

TOTOMO15 周年記念講演会では、福原義春さんと阿刀田高さんに「文化をつむぐ 図書館でつながる」をテーマにお話し頂きました。鋭い切り口でのお話ながらも穏やかな鼎談が叶ったのは進行役を務めてくださった末吉さんのおかげです。心からの感謝ともにご冥福をお祈り申し上げます。　（阿曾千代子）

TOTOMO15 周年記念講演会にて
左から末吉さん、作家・阿刀田高さん、
資生堂名誉会長・福原義春さん

田辺松坡先生をめぐる人々７　西松秋畝

松坡文庫研究会　代表　袴田　潤一

鎌倉市中央図書館に松坡先生の詩扇面二枚があります。松坡先生が日本画家の西松秋畝（にしまつしゅうほ）に贈ったもので、去る５月に秋畝のお嬢様で、やはり日本画家の西松凌波（りょうは）さんから図書館に寄贈されました。

西松秋畝（1875～1963 本名は団三）は岐阜県出身の円山四条派の日本画家で、東京美術学校では荒木寛畝（かんぽ）と川端玉章に学びました。卒業後、神戸の中学校で教鞭を執りましたが、恐らく明治 30 年代末頃から神奈川県師範学校で教えるようになりました。教員としての経験を活かして、『最近図画教授法』（宝文館 1903）、『改正小学校令適用図画科教授法』（白浜徵（あきら）　訂　鍾美堂　1907）などの著作もあります。画家としては帝展や荒木寛畝が主催した読画会（1905～1945）などに出品しています。

師範学校在職中の西松先生のことは卒業生が次のように回想しています。

「お前、これは何を書いたのぢや、茶碗が鉢巻しとるようぢや、こんな下手な繪を書く者はこの學校には一人も居らぬ。」　入学當初、醤油樽を寫生してうんと脂を搾られたことを今も記憶してゐる。…（中略）…思いさま手痛い叱言を浴せかけておきながら心中に一點も邪念のない先生だつた。

（大正４年卒業　荒川義治「其の頃を憶ふ」　『創立六十年記念誌』神奈川縣師範學校 1935）

歯に衣着せぬもの言いの、厳しい先生だったようです。

秋畝は神奈川県師範学校在職中、鎌倉女学校校長を務めていた松坡先生（田辺新之助先生）の懇請により、大正３（1914）年に同校の講師となりました（昭和 14 年頃まで在職）。創立 25 周年記念式典（1929 年）に際し、勤続者として表彰されています。

鎌倉女学院での秋畝の仕事として記録されているのは、大正 14（1925）年度の入学生から使われた同校最初の校章の図案を考案したことです。『鎌倉そして鎌女』（鎌倉女学院 1981）には、松葉を象った図案は学校が海岸付近一帯の松林の中にあったことと、田辺新之助校長が「松坡」と号していることによるのだと秋畝自身が語っていたとも記されています。松坡先生が秋畝に扇二本を贈っていることからも、秋畝と松坡先生とは一講師と校長という関係だけでなく、芸術（美術と文学）を通した友情で強く結ばれていたと思われます。

西松秋畝旧蔵の松坡詩扇面　（鎌倉市中央図書館蔵　西松凌波氏寄贈）

秋畝旧蔵の詩扇面の一つを見てみましょう。五言絶句が書かれています。

林下卜幽居　　林下　幽居を卜（ぼく）し
竹間通細逕　　竹間　細逕に通ず
誰云韓子廬　　誰か云う　韓子の廬（ろ）と
有意占名勝　　意有りて　名勝を占む
癸酉夏日　松坡居士

俗塵を避けて静かにひきこもって暮らすための廬（いおり）（庵）がまるで「韓子」の廬のようだと言っています。韓子は韓愈（768～824）をいうのかも知れません。その廬が風情のある見事な風景を独り占めしているのだと詠じています。癸酉は昭和 8（1933）年。この詩は「夏日偶成七首」の第五首として『漢詩春秋』第 17 巻第７号（1933.7.1）に掲載されたものですが、秋畝の鎌倉の住まいを詠っているかのような詩であり、松坡先生自ら扇面に認めて秋畝に贈呈したのです。

松坡先生が親しく交際した西松秋畝に贈った詩扇面がその死後も長くお嬢様によって大切に保管され、更に松坡文庫のある鎌倉市中央図書館に寄贈されたことはまことに喜ばしいことです。

松坡文庫研究会　第３回講演会のお知らせ

演題：「松坡先生　鎌倉を詠う」

明治末より亡くなるまで長く鎌倉に住み、鎌倉を愛してその文化の向上に貢献した田辺松坡は、折に触れて鎌倉の名所やその歴史を漢詩に詠みました。

そのいくつかを紹介しながら、鎌倉の歴史・文化についてお話しいたします。また、漢詩を詠んだ折の松坡先生の生活の様子や心境、先生の交友についても触れたいと思います。

講師：袴田潤一（松坡文庫研究会　代表）

日時：２０２２年１０月９日（日）１４時～１６時

場所・資料代・申込方法：未定（決まり次第とともものＨＰ、ＦＢでお知らせします）

共催：鎌倉市中央図書館

後援：図書館とともだち・鎌倉 / 逗子開成中学校・高等学校

第１回ファンタスティック☆ライブラリー１１１　実行委員会報告

（６月９日（木） 於：中央図書館多目的室）

第１回ファンタスティック☆ライブラリー111 実行委員会が６月９日（木）14：00～15：30 に三団体４名と中央図書館長、図書館員４名の合計９名の参加で行われました。

最初に栗原中央図書館長からのご挨拶があり、ファンタスティック☆ライブラリーへの取り組みについての今の状況や運営についてのお話がありました。

委員会では今年度のファンタスティック☆ライブラリーの大凡の内容が決まりました。深沢学習センターを会場にすべての参加団体のイベントを行い、展示物はその後各館に巡回、HP にも掲載の予定です。開催日程は、2023 年１月 29 日または２月４日で申請中。時間は９：00～18：30 で準備から撤収までをこの時間帯で行います。

さらに会場が深沢なので深沢中学校と連携することで地域館の特徴が生かせるのではないだろうか。できれば小学生にも参加してもらえれば広がりが持てるのではないかとの意見もありました。まだ具体的ではないが検討していきたい、とのことです。

今後の予定として次回までに各団体は企画内容をまとめること。

「広報かまくら」への掲載は１月１日号（締め切りは 12 月１日）です。

次回実行委員会は９月です。日にちは未定。時間は 14：00～。場所は深沢学習センターを予定しています。TOTOMO からは阿曾（松坡文庫研究会兼務）、杉崎、水岡が参加しました。　（水岡やす子）

鎌倉市は、「鎌倉市新庁舎等整備基本計画（素案）」及び「鎌倉市市庁舎現在地利活用基本構想（素案）」について、市民からの意見募集（パブリックコメント）を実施しました。

（提出先：鎌倉市まちづくり計画部市街地整備課／期間：2022 年６月 11 日～7 月 10 日）

市庁舎現在地活用にあたっては、現在市役所として使われている建物に中央図書館が移転するという案があり、また、新市庁舎の基本計画には深沢図書館が含まれています。

私たち市民の図書館の今後に大きく関係してくる問題であると捉え、募集に応えて TOTOMO メンバーも多数意見を提出いたしました。

提出された意見は全て意見募集場所及び市ホームページで公表される予定とのことですので注目しています。

湘南邸園文化祭連絡協議会　総会及び第１回連絡会　参加報告

今年度の総会及び第 1 回連絡会が 5 月 30 日 14 時よりオンラインで開催され参加しました。

総会は、正会員 38 団体のうち、出席正会員数 15 団体、委任正会員数 12 団体で成立し、組織体制、決算報告、予算計画、事業スケジュール等について話し合われすべて承認されました。

（新しい組織体制）

会長：森浩章氏（NPO 法人茅ヶ崎の文化景観を育む会）、副会長：小笠原貴子氏（湘南邸宅文化ネットワーク協議会）、副会長：渡辺剛治氏（NPO 法人小田原まちづくり応援団）、監査：佐野晴美氏（蔵まえギャラリー）、顧問：内藤英治氏（湘南邸宅文化ネットワーク）

続いて行われた第 1 回連絡会では、本年度の企画参加申込状況や広報計画、ガイドブック印刷までのスケジュールなどが話し合われました。

最後に、16 年間にわたる湘南邸園文化祭の活動を市町・各主催団体別、催しのテーマ性等も分類して整理された**「湘南邸園文化祭総覧年表」**（邸園文化調査団　菅孝能さん作成）の説明がありました。長年の活動を一覧でみることが出来て壮観です。TOTOMO でも今後の活動に役立てていきたいと思いました。

（興味のある方は事務局までお問い合わせください）　　（阿曾千代子）

湘南邸園文化祭連絡協議会　第２回連絡会　参加報告

第 2 回連絡会が 7 月 14 日（木）14 時より新組織体制のもとオンラインで開催されました。

秋のイベント開催に向けてガイドブックの修正確認作業が行われました。

今年のキックオフ記念式典は「湘南工科大学総合デザイン科空間デザインコース」の主催により、ガイドブックの表紙写真に取り上げられた「小津・ノグチ・茅ヶ崎館」（9 月 19 日　祝・月）において開催されます。期間中は学生たちの制作が館内に展示されます。

「庭屋一如研究会」の企画として、令和の大修理を終えた横濱三渓園の重要文化財・臨春閣の見学会も実施されます。

今回のガイドブックよりニュースの頁が新たに設けられ〈モーガン邸再建・旧大佛邸再生へ・逗子の洋館「旧本多邸・久米設計が全面改修！」〉の情報が発信されます。

今年も新企画をはじめ一見に値する企画が数多く予定されていますのでぜひご参加ください。

コロナ禍第 7 波の感染拡大が懸念される状況の中、イベント主催団体からの中止連絡については、湘南邸園文化祭 HP（ http://shonan-teien-festival.org/ ）に掲載します。

ガイドブック配布は県の記者発表の日程調整が済み次第行われます。（昨年は 8 月末でした）

（阿部光世）

かまくら銀幕上映会のお知らせ（主催：ドリーム・アーツ（03-5969-8081）　於：鎌倉芸術館小ホール

8/22（月）『ゴヤの名画と優しい泥棒』　　9/20（火）『オートクチュール』

10/3（月）『シング・ア・ソング/笑顔を咲かす歌声』

◎前売り券：1000 円（当日券：1300 円　　◎上映時間①11：00～／②14：00～

☆受付で「田邊さんから聞いた」とおっしゃっていただければ、前売り料金でご覧いただけます

ボランティア連絡協議会報告

6月16日（木）、福祉センターボランティア活動室1，2において、今年度最初の委員会を行いました。参加者は28名でした。今年度役員紹介の他、新規加入グループの紹介等がありました。

7月5日（火）には、七夕プロジェクトメンバーで鶴岡八幡宮本殿に赴き、正式参拝をしました。七夕プロジェクトは、鶴岡八幡宮からご依頼をいただいて5月から取り組んでいたものです。本殿や舞殿前、太鼓橋前など数か所に設置された笹飾りやくす玉飾りの制作を行いました。ボランティア連絡協議会が中心となり、就労支援施設の「道工房」と「虹の子作業所」にも協力を求め、皆で力を合わせて取り組みました。初めての取り組みに戸惑いながら、また短い期間でのことでしたが、自分たちの作品を八幡様に飾っていただけるのは大きな喜びでした。この日の参拝には、ボラ協、道工房、虹の子作業所から数名ずつ、総勢20名ほどが参加しました。参拝後は早くも来年の飾り作りの話で盛り上がりました。

舞殿前の笹飾り

7月14日（木）の役員会では、今年度の福祉まつりの概要がわかりました。3年ぶりの開催となりますが会場等の関係で内容を大幅に縮小し、従来のものと区別するため「かまくら福祉の市」と名付けました。日時は9月4日（日）10～14時、会場は福祉センター駐車場と1階の一部です。

8月2日～8日には、鎌倉駅地下道ギャラリーでパネル展示を行います。新規加入グループなどを中心に展示しますので、お近くにお寄りの際はぜひご覧ください。（黒瀬聖子）

協働事業推進部会報告

7月2日（土）12時から、本庁舎全員協議会室においてスタートアップコースの公開プレゼンテーションが行われました。不登校児の居場所づくりや地域の環境を守る活動など、様々な切口で地域の課題に意欲的に取り組む様子がうかがえました。審査選考にあたる市民活動推進委員5名からは活動方針や目的について次々に質問が出されました。傍聴者10名のうち5名が当部会員でした。

7月15日（金）の部会では、2日のプレゼンテーションを行った5団体のうち3団体が選考に通ったことがわかりました。そして傍聴しての感想や、今後どのように関わっていけば良いかについて話し合いました。一方、協働コースの方は8団体がエントリーしていますが、9月19日のプレゼンテーションに向けてどのような支援をしていくかについても意見を出し合いました。（黒瀬聖子）

◇ ◇

ＴＯＴＯＭＯ活動日誌（5/26～7/27）

5/15～6/19　図友連総会
5/30　湘南邸園文化祭総会・連絡会出席（Zoom）
6/1　間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会
6/9　ﾌｧﾝﾀｽﾃｨｯｸ☆ﾗｲﾌﾞﾗﾘｰ111実行委員会
6/9　ボランティア連絡協議会役員会出席
6/15　鎌倉・文化の森と懇談会
6/16　本の海サポーターズ交流会参加
6/16　おはなし会打ち合わせ
6/16　ボランティア連絡協議会委員会出席
6/17　協働事業推進部会出席
6/24　読書会
6/29　教育文化財部長・中央図書館長との懇談会
6/30　「おしゃべりランチ会」でのおはなし会
7/2　図友連会員交流会参加（Zoom）
7/14　湘南邸園文化祭連絡会出席（Zoom）
7/14　ボランティア連絡協議会役員会出席
7/15　協働事業推進部会出席
7/19　ＮＰＯﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会出席（Zoom）
7/21　おはなしひこうせん勉強会
6/11～7/10　市役所新市庁舎・現在地ﾊﾟﾌﾞｺﾒ提出
ロビー活動　随時
定例会8回（6/1，8，15，29，7/6，13，20，27）

◇ ◇

TOTOMO COMING NEXT！　事務局からのお知らせ

予報では、今年も猛暑の夏になるとのこと。暑い日は涼しい図書館で読書が一番。
コロナ感染に気をつけて、楽しい夏をお過ごしください。

おはなしひこうせん勉強会

日　時：　９月８日（木）１０時～１２時　　場　所：ＮＰＯセンター鎌倉にて
テーマ：　「バリアフリー」　今年度のファンタスティック☆ライブラリーのテーマを「バリアフリー」とします。どんな展示発表にするか話し合います。
お問い合わせは、黒瀬（TEL/FAX　０４６７－２２－８５４５）まで。

読　書　会

日　時：　８月２６日（金）１１時～１２時半　　場　所：ＮＰＯセンター鎌倉にて
テーマ本：若松英輔著『悲しみの秘儀』（文春文庫）と川内有緒著『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』（集英社）です。
お問い合わせは、杉崎（TEL/FAX ０４６７-４１-４９５６）まで。

間島弟彦・間島愛子夫妻　旌徳の会

日　時：　８月３日（水）１３時半～１６時半　　場　所：ＮＰＯセンター鎌倉にて
お問い合わせは、鈴木（TEL　０９０－４７２８－５２４２）まで。

松坡文庫研究会　第３回 講演会
松坡先生「鎌倉を詠う」

日　時：　１０月９日（日）１４時～１６時
場所・資料代・申込方法：　未定　（決まり次第、とともものＨＰ、ＦＢでお知らせします）
お問い合わせは、鎌倉市中央図書館（TEL ０４６７－２５－２６１１）まで。

※上記の各会については、ＣＯＶＩＤ－19 感染の状況により、変更になる可能性があります。
参加される方はＴＯＴＯＭＯのＨＰやＦＢでご確認いただくか、お問い合わせください。

☆図書館友の会全国連絡会
総会と交流会が終わり新年度の活動が始まりました。ＭＬでは活発な情報交換が行われています。
また、国への要望書提出や第 108 回全国図書館大会に向けた準備も進められています。
お問い合わせは、阿曾（TEL/FAX：0467-45-5731）まで。

編集後記　＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊
☆7 月になって、またコロナの感染者が増えてきました。行動制限はないとのことですが十分気をつけて夏を乗り切りたいと思います。(A.S)
☆感染者再び増加していますが、夏休みはいつも通り始まりました。図書館にやってくる子どもたち、夏中元気でいますように！（M.S）

題字・巻末カット：小島寅雄　　**2022 年 7 月 27 日発行**
図書館とともだち・鎌倉（代表：和田安弘）　編集：阿曾・黒瀬・目黒・杉崎・斉木
事務局：〒248-0005　鎌倉市雪ノ下 1-14-34（黒瀬）TEL/FAX 0467-22-8545
ＨＰ：http://totomo.sakura.ne.jp　E-mail:toshokantomodachi@gmail.com